

官公庁向VHS

定価:88,000円(本体80,000円)



戦後の日本映画界を担った『けんかえれじい』の鈴木清順監督、『忍ぶ川』の熊井啓監督、『父と暮せば』の黒木和雄監督など名監督の、数々の作品で美術監督を担当した巨匠・木村威夫。本作『夢のまにまに』は、今年90歳を迎えた木村の長編劇映画デビュー作です。

映画学校の学院長・木室創と、学生・村上大輔の世代を超えた

交流。そこで浮き彫りにされる木室と妻、老夫婦の過去。 木村威夫の決定的体験となった戦争を見据えながら、老い と若さ、男と女。生と死を、象徴的にめくるめく映像美で 表現しています。また木室と、病を抱えて苦悩する青年・村上 との出会いに、かつて戦争で散っていった若者たちの命を 重ね、失われた青春の慟哭が痛切な思いで描かれています。

木村威夫の記念すべき監督デビュー作に、 各界から豪華スタッフ&豪華キャストが集結しました。













出演者は、主人公 木室創役を、大御所・長門裕之。その妻・木室エミ子役を、7年ぶりに映画出演を果たした、有馬稲子が 迫真の演技をみせます。そして、木室創と交流する学生・ 村上大輔役に、ミュージカル界のプリンスこと井上芳雄。 物語のキーとなる女性に、日本を代表する女優、宮沢りえ。 若き日の木室役に永瀬正敏、若き日のエミ子役に上原多香子、 闇屋役に浅野忠信、村上大輔の母親役に桃井かおり。葛山 信吾、南原健朗、高橋和也、エリカ、小倉一郎、鈴木清順ほか、 個性豊かで魅力的なキャストが揃いました。そして、昨年 惜しまれながらも急逝し、本作品が遺作となった能楽師・ 観世榮夫が作品に重みを与えます。

あらすじ

木室創(長門裕之)は、映画を専門とするNK学院の学院長に就任した。その中で、一人の学生・村上大輔(井上芳雄)が何かと気に掛かる。大輔は、60年前の戦時中に自分達のような若者がたくさん死んでいったことの不条理さに苛立ちを感じ、戦時中を生きた木室にその思いをぶつけていた。また、木室の妻・エミ子も(有馬稲子)も、60年前に大切な人を亡くし、生き残ってしまったという思いからいまだに抜け出せずにいた。木室もまた、過去を背負ったまま、老いて死を迎えようとしていた。

しかし、大輔が精神病を患い、学院を中退後に木室と交わした手紙の中で、大輔が自殺をほのめかす。何とか思いとどまらせようと木室は手を尽くすが・・・。 そうこうしている折、本室夫婦にもある変化が訪れていた・・・。

(2008/カラー/35mm/106分/ピスタサイズ)



北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2 〒336-0911 電話048-810-**5277**